

グループホーム [オリーブハウス蔵王] 1, 調査報告概要表

広島県地域密着型居宅介護事業所
外部評価機関 特定非営利活動法人 あしすと

【評価実施概要】

事業所番号	3471504039
法人名	(有)オリーブハウス
事業所名	オリーブハウス 蔵王
所在地	福山市南蔵王5丁目22-3 (電 話) 084-946-5453
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 3 月 17 日

【情報提供票より】(20 年 3 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 3 月 14 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3 人 非常勤 6 人 常勤換算 7.25 人

(2)建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金か 否)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円 または1日当たり 850 円		

(4)利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	81.2 歳	最低 67 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	若林医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年3月30日

商業地帯の中にあり、利便性に富んでいる。家庭的で生活感のある環境作りとなっている。職員一人ひとりがケア目標を掲げ、達成に向け日々頑張られている姿勢が伺えた。又理念にもある、利用者との出会いを大切に心の底から楽しくありのままに生活して欲しいと言う願いを全職員が共有され、日々のケアに活かしていくよう努められている。どんな状態になってもその地域で安心して過ごせる町づくりを目指し、ホーム長、管理者、職員が一丸となり取り組まれている。又ボランティアや障害者自立支援などの受け入れも積極的に行い地域に根づいた事業所になると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点目標	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点については、真摯に受け止められ、すべて取り組まれていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を全職員が理解されている。管理者は職員の意見を聞きながら取れ組まれ、その中で気づいた問題点についてはミーティングなどで話し合い改善に努められている。
重点目標	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回定期的に開催され、メンバーとのコミュニケーションを大切に、それぞれの立場の人の意見が出易い雰囲気づくりに努め、和やかな会議となっている。又、その中での意見を真摯に受け止め、サービスの質の向上に活かして行くよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7,8) 3ヶ月に1回家族会を開催し、意見や要望を聞くよう努めている。又その場で伝えにくい意見や要望、苦情などについては、家族会の会長を通し伝える事が出来る仕組みとなっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の清掃活動や声かけ運動などへ、利用者と共に参加し、顔見知りの関係づくりを積極的に行っている。地域のボランティアの受け入れも多く、地域の中に溶け込まれている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に、「ありのままに生きる」という方針があり「認知症になっても地域の中で安心して暮らしていける」という目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に職員それぞれが目標を掲げ、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、声掛け運動や清掃活動などに積極的に参加され、地域の方々との交流をはかっている。又、地域ボランティアや障害者自立支援のボランティアなど積極的に受け入れるなど、グループホームの運営に協力してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を出し合いながら自己評価を作成し、外部評価の結果についてはミーティングなどで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。改善点について職員は自分の課題として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われ、メンバーとのコミュニケーションを大切にしながら事業所における問題点や状況を説明し、多くの意見をもらいながら、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々、互いに連携を取りながら情報提供している。問題点についてはアドバイスをもらいながら市と協働し、サービスの質の向上に努めている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真と日々の暮らしを書き添え、家族に報告している。金銭管理についても伝えている。訪問時には生活の様子を伝え信頼関係を気づいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1回家族会を開催し意見や要望を汲み取っている。直接伝えにくい意見や苦情要望については、会長を通し、伝えることが出来る仕組みとなっている。玄関には意見ボックスも設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。やもうえず離職する場合においては、1ヶ月の引き継ぎ期間を設け利用者に理解が得られるように努力している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については順番に受講し、内容については内部研修の中で全職員に周知している。内部研修も月1回開催し、日々のケアの問題点について研修している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「スタッフ交流研修会」として、他の事業所との交流会を月1回開催し、問題点や失敗談などを話し合うことにより職員のストレスの軽減や、やる気を起こし励みとしている。又、互いの事業所への見学会や実習なども行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みを受けた段階で管理者が訪問し、利用者や家族と話し合いを行っている。また、1日体験の「お試し」をしてもらい徐々に場の雰囲気に馴染めるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のこれまでの人生経験から学ぶことが多く、お互いに信頼関係を持ち、ともに支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握すると共に家族からも聞き取りを行い、希望、意向にそうよう努めている。気持ちや意見を伝えることが困難な利用者について、表情や様子から意思を汲み取り、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議で職員の意見を取り入れると共に家族の要望も反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、その都度、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や要望により、かかりつけ医への受診など、柔軟な対応をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望によりかかりつけ医との関係を築きながら対応している。協力医療機関とも適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについて家族と十分話し合い、希望される場合は家族と共に医師から説明を受け、全員で方針を共有している。職員間でも、マニュアルを基に方針を定め、共有に努めている。		
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけも優しく、公平に対応されている。個人情報の取り扱いについても配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を把握し、一人ひとりの生活のペースを理解し、希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に配膳や片付けなどを行っている。それぞれの利用者の健康状態に合わせた調理方法や盛り付けの工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂場のスペースや木製のすのこなどの設備は、利用者が安心してゆっくり入浴できるよう、工夫されている。また、希望によりいつでも入浴できるよう、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を「身体、心理、生活環境、役割、地域、スタッフ」などの6項目の観点から理解することに勤め、役割や楽しみ事の支援に結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と共に、毎日散歩や買い物に出かけている。週1回はイベントを行い、カラオケや美術館などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。外出傾向のある人に対しては、見守りとチャイムで対応している。又、近隣の警察や大型スーパー、電気店などへ利用者の状態を伝え協力を得るように働きかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2～4回、消防署の指導のもとで内部で避難訓練や消火訓練を利用者と共に行っている。	○	運営推進会議に提議し、話し合いを深め、地域の協力を得るための取り組みが期待される

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量は、1日を通して把握している。又、栄養バランスやカロリー計算についても指導を受けている。		
2 . その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳スペースもバリアフリーとなっていて、装飾品も家庭的である。リビングにはソファもあり、ウッドデッキには自由に出入りできる。それぞれが居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室も広く、畳の部屋もあり、筆笥なども持ち込まれ、人柄を感じさせる居室である。入居者は安心し、居心地よく過ごされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム オリーブハウス蔵王

評価年月日 2008 年 3 月 17 日

記入年月日 2008 年 3 月 1 日

記入者 代表/管理者 氏名 柳 田 大 輔

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「BS法」により、スタッフ全員で作成したやりたい事、やってみたい事の中から「A身体・自立・健康に関すること」「B心理・快適さ・安全に関すること」「C生活環境・設備・衛生管理に関すること」「D役割・生きがいに関すること」「E地域・家族に関すること」「Fスタッフに関すること」の6項目に分け、理念を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個々の面談、様々な勉強会、寄り合い、ユニット会議で理念、方針、目標を再確認し、研修を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事に参加時、広報活動を行っている。また、運営推進会議等でホームの説明等を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域への挨拶を積極的に行い、町内会員としても、溝掃除や様々な町内行事に参加している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベントに参加していると共に、地域のボランティア活動、障害者自立支援のボランティア活動などを積極的に招き入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居相談を中心に、地域の福祉ニーズ把握に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び、外部評価の意義、目的を理解している。また、玄関に設置し、いつでも閲覧できるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の意見を広く取り入れ参考にしている、また、地域の方々とのコミュニケーションを図る場ともしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地元公民館で開催される福山市認知症予防教室で、認知症介護アドバイザー（講師）として、参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料を集め、それらを参考にし、学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を集め、マニュアルを作成している。また、職員と交流を深め、意見が言い易い場を提供するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。また、入居後も随時、相談に応じている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満、苦情に耳を傾け、運営に反映できるよう努めている。また、玄関には、意見箱を設置し、意見、苦情等が気軽に言えるような環境作りにも努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌の郵送による、定期的な報告をし、家族等の訪問時には、随時、過され方や、健康状態等について報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中に会長を設け、家族の方々がより広く意見を発することができるよう努めている。また、それらの意見を現場に反映することができるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット会議、また、何かあった時には随時、寄り合いを行い、会議、寄り合いで決まったものを実行に移している。また、スタッフと面談を行い意見を聞く場を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に合わせた勤務時間の調整を、職員同士の話し合いのもと、行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるため、スタッフと面談をし、話し合っている。また、他事業所との交流の場である「スタッフ交流研修会」に参加し、様々な話、失敗談、意見を聞く中でスタッフのストレス軽減しになるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会、地域で行われる勉強会、スタッフ交流研修会に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「スタッフ交流研修会」として、他事業所との交流を通じて、スタッフ個人のストレス軽減、自己実現の触発などを行っている。また、互いの事業所に見学、実習に行くようにもしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「スタッフ交流研修会」で様々な場面での失敗談、感情、成功談、苦労話などをお互い共有し、少しでもストレスの軽減になるよう工夫している。また、随時、スタッフとは、面談を行い、意見を交わせる環境作りに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、常時、スタッフの努力、実績、勤務状況を管理者より報告を受け、把握している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでには、管理者がその利用者宅に伺い、話を聞いている。また、その間にはGHへ体験利用をして頂くようにもし、本人の不安を取り除けるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、何度か自宅に訪問すると共に、連絡を取り合い、不安なこと、求めていること等を聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に入居に対して、緊急性があるかどうか見極め、他のサービス利用も含めた対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が女心し、納得した上でサービスを 利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら進めている	正式に利用される前に、何度かGHに遊びに来ていただいたり、体験利用をする中で、雰囲気に少しずつ馴染めるよう家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが ら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来ること、特技、やりたいこと、役割を見つけ、それらを 掲示し、スタッフが共有、努力できるようにしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族も入居者を支える一員として、お互いに意見を言い合い、相談し合える関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	アセスメントにより、本人と家族の関係との把握し、より良い関係が築けるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時、来客を受け入れたり、馴染みの場所への外出を行ったりと支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、日々の生活の中での食事作り、掃除、散歩時、団らん時に助けあうペアや、グループ作りを支援するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者本人、家族が望まれる場合、契約が終了しても、気軽に来訪していただいている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や要望を聞き、行動や仕草から思いを探り、生活記録に記録している。また、家族等より話を伺うようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、その以前からの生活暦を把握し、日々のケアに生かすことができるよう、家族から話を伺うようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録用紙や申し送り日誌などに、その日1日の過ごし方や心身状態などを記録し、把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議に本人、必要であれば家族も参加して頂き、スタッフと共に意見やアイデアを出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直し、変化が生じた場合の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記録し、いつでも内容が確認できるようにしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅外泊の奨励をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回以上は、ボランティアが来て下さり、入居者の意向に合わせた活動を行って下さっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向と必要性に応じた支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族等の希望に応じ、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師より、随時、助言、アドバイスを頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師スタッフ、協力医療機関の看護師や、利用者をよく知る看護師と相談しながら、健康管理などの支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療SWと入院月より、連携を取り合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、運営及び終末期の医療、看護、介護に関する方針を本人、家族等に説明している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族等、連携医の意見を聞き、必要に応じて、当事業所においてターミナルケアを協力医療機関と共に行い、看護師の配置、24時間の連絡体制が行えるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHから退去されるさいには、情報提供書を作成し、情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を守った、言葉かけや対応を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや意見をその人に合わせたペースで傾聴したり、表情から読み取っていくことで把握できるよう努めている。また、常にスタッフ側で決めるのではなく、入居者に伺いながらの自己決定の支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、どのように過したいか耳を傾けながら、少しでも多くの希望に添える支援を心がけ、行うようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人、家族等の希望、要望にあわ対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	折り込み広告や料理の本を、利用者と一緒に見ながら、買うものを決めたり、調理方法を聞いたりしている。また、一緒に食事準備、後片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者本人の嗜好しあわせ、支援、提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「幸せケアプラン」に基づいて行っている。また、定時の時間以外の同谷による排泄パターンを何通りか把握し、支援できるよう努めている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人のペースにあわせて、急がせず行っている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	くるろげる場所や、休める場所の提供に努めている。また、安心して休める環境作りに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日曜大工や、生け花、花壇の整備など一人ひとりの生活歴に合った役割が発揮できる場所、環境、機会の提供に努めている。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家計簿の計算を一緒に行い、お金を数えていただくこともしている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	様々なイベント、行事、また、買い物に出かける他にも、カラオケや喫茶店でのお茶タイムなど工夫し支援をしている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1泊旅行にも出かけたことがあり、また、普段はいけない遠方の外出が出来る機会も設けることができるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話がしやすいように環境を作り、支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう、玄関を開放し、入りやすい雰囲気作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないマニュアルの作成をし、また、様々な勉強会、研修に参加することで啓発に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけずに開放している。また、スタッフは勉強会などで日中玄関に施錠することの弊害を学び、理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士声をかけあいながら、利用者の所在の確認、様子観察を行い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者本人にあわせた安全の確保を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な勉強会などを行っている他、事故発生連絡票の記録を読み直し、振り返ることで、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時に応急処置ができるよう訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防計画を立て、避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクを、家族等に説明し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	主治医に連絡をし、対応を伺っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師かの意見や、薬の情報をスタッフが理解しており、薬などの情報をファイルにとじ、いつでも目を通せるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物に工夫や、色々な運動を試みている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医の指導のもと、清潔保持に努めている。また、ボランティアの歯科衛生士による助言もいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量、水分量を把握し、提供している。また、献立票を栄養士に確認していただき栄養バランスもとれるよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する資料を集め、マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の洗浄をこまめに行うと共に、新鮮で安心な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節をあしらった花壇の配置、また、松やさつきなどの緑あふれる植物の配置を心がけている。そして、訪れた方が親しみが湧くようなくつろげる雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まるで自宅にいるかのような生活感ある環境作り、そして、少しでも季節感を感じることでできる環境整備に努めている。また、可能な限り引き戸にし、民家改修型の利点を生かした空間設備を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、気軽にごろ寝、昼寝、雑談等のできる空間の確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の使い慣れた様々な物、道具（食器、箸、湯のみ、タンス、棚、アルバム、裁縫道具、飾っていた人形など）を持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を常に行っている。また、外気との温度差に注意し、温度、湿度が同時にわかる計測器を至る所に設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、できる限りバリアフリーにし、至る場所に手すりを取り付け、つまずきやふらつき等からの転倒を防ぐ環境作りに努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの好きなこと、得意なこと、残存能力でできること等を生かせる「幸せケアプラン」を作成し、実行することで、失敗をふせぎ、生き生きと楽しく生活できるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには季節感あふれる草花を植え、ウッドデッキは開放し、洗濯物干しや布団干し、時には日向ぼっこなど誰でも行えるよう活かしている。		

・サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・「幸せケアプラン」や「スタッフの年間目標」を壁に掲示することにより、利用者本人、スタッフがそれらをいつでも確認することができる。

利用者本人は日々の生活の生きがい、楽しみを達成することができ、スタッフはそれぞれの目標達成のための努力を、相互に助け合い、達成することができ、お互いを啓発しあえるようにしている

・同業種の他事業所と行っている「スタッフ交流研修会」にスタッフ自らが参加し、自己研鑽に努めている。また、参加する中で、同じ感情を抱えている方々と接することで自分の感情の開放しなり、また、色々な失敗談を聞く中でどのように努力をしていけばよいか方向性が示されることもあり、ストレスを軽減できる場にもなっている。